

て最後にはがすといった方法で枯死は防げぬ
だろう。土をかぶるのはいけない。キリの
栽培では、冬は根元に土をかぶせ、暖くな
ってからその盛り土を取り除くという。いわ
ば、キリの腰を大事にしているわけだ。スバ
ルラインの場合、土砂をかぶっていない個所
でも枯死しているのだから、皮やけ説をとら
ざるを得ない。

- 土の乾燥度とか水分含量のちがいが影響
していると思うが。
- ◎ 分らない。しかし、水分含量の比較をや
ってみても、そんなにちがわないと思う。
- ヘビノネゴザは、カドミウムにも強いと聞
いているが。
- ◎ それは、教育大学の森下氏が発見したこと
だ。足尾銅山はCaは少ない。ヘビノネゴザは

他の金属もよく吸収し、佐賀ノ関ではZn、
Pbの吸収も多いという。

- 宮崎県日ノ影鉱山はSnだが、ここにもヘ
ビノネゴザは多い。1905年頃の「植維」に
武田氏がすでにヘビノネゴザは鉱物質を好む
と書いている。
- ◎ カナヤマワラビの別名があるくらいだ。
- アカウロコゴケやその他の植物について、
重金属との関係はどうか。
- ◎ 佐賀ノ関でも秋田の小坂鉱山でもヘビノネ
ゴザとともにアカウロコゴケは密生している。
また、ススキやイタドリなど崩壊地や火山灰
土に広く分布するものが、重金属に強いよう
である。これは、適応力と、分布の広さに関
係があるためだろう。

(解説 清水建美)

鉢盛山(黒川)採集会

57.25 スミ

1972年10月1日、7時30分、東筑摩郡
波田村役場前に集合。鉢盛山植物調査のために
特別に役場から用意していただいた大型ジープ
で黒川に向う。黒川は鉢盛山(2446m)から流
れ出す最も長い川で、下流で梓川に合流する。
島々駅より黒川林道に入る。スギ、カラマツが
植林されており美しい。標高はぐんぐん上がり
梓川の清流が眼下に見られる。尾根には天然の
アカマツ林があり松茸がりの人が見られる。山
腹はカラマツの一斉植林で美しい。沢にはオニ
グルミが950mまでのぼっている。それ以上にな
るとサワグルミ、オオバヤナギ、オノエヤナ

ギ、カツラがみられるようになる。1000m附
近の崩壊地には大きな花をつけたフジアザミが
目につく。車から降り写真を撮る。ゴマナ、ヤ
クシソウ、キオン、ヨツバヒヨドリ、オオバセ
ンキュウ、ヤグルマソウ、アカソ、コウモリソ
ウ、ヒメノガリヤス、ヘビノネゴザ、リョウブ、
マンサク、ミズメ、ウダイカンパ、ニシキウツ
ギ、ヤマブドウ、キブシ等の山地帯の草木が目
につく。車は奇岩の聳え立つ天狗岩につく。天
狗岩は花崗岩の露頭がみられ、ここで希品のコ
マイワヤナギをみつける。ハクサンオミナエシ、
アキノキリンソウ、ミヤマママコナ、ミツバベ

ソケイソウ、ヤマハハコ、ネコシデ、エビガラ
イチゴ、ツガ、ノリウツギ、キタゴヨウマツも
みられる。ここまでの黒川はV字溪谷であった
が、U字溪谷となりシラビソ、トウヒ、コメツ
ガ、ウラジロモミ、ダケカンバ、ハクサンシャ
クナゲ、オオカメノキの混交する亜高山帯に入
る。名勝差切につく、帰途薄暗い中で清水先生
がヒメシヤジンをみつける。岩の上には地元の
人がモチノキと呼んでいるヤマグルマが見られ
る。差切を過ぎたところで奥原先生が車の中か
らオオヤマレンゲをみつける。大きい株がいく
つもある。附近にはサワラ、クマシデ、サワシ
バ、トチ、カスミザクラ、アサノハカエデ、ク
ロベ、シナノキ、ウリハダカエデ、マルバカエ
デ、チドリノキ、シラカンバ、オシダ、フジン
ダ、イヌガンソク、シラネウラボ、ヤマイヌワ
ラビ、ザリコミ、ミヤマウラジロイチゴ、クマ
イチゴ、ナンブアザミ、タイアザミ、アズマヤ
マアザミ、ノリクラアザミ、シシウド、カワラ
ハハコ、キダチネズミガヤ、ナベナ、ミヤマト
ウバナ、キツリフネ、ツルアジサイ等がみられ
る。再び車に乗り出発、カントウマユミ、コミ
ネカエデ、キハダ、ミズナラがみられ対岸には
マタタビの葉が白くあざやか。黒川林道入口よ
り14.6 kmの地点が車の終点。駐車場附近には
アレチマツヨイグサ、シロツメクサ、ヒメムカ
シヨモギ、オオアワガエリ、ムシトリナデシコ
等の帰化植物がみられる。海拔1500mでカラ
マツの植林域である。コメツガが皮をはがれて
立ち枯れている。

ここで2班に分かれ、若者は頂上に向う。清
水先生は頂上へ登りたいようであるが、かぜの

ために断念する。全山紅葉のすばらしい眺めを
満喫しながら細い林道を登る。ケバイカウツギ
オヒヨウニレ、シウリザクラ、モトゲイタヤ、
オオウラジロノキ、オガラバナ、ウラジロモミ、
ムラサキヤシオ、タカネザクラ、ミヤマザクラ
コシアブラの下にはタニソバ、ヒカゲシラスゲ、
クロコスカグサ、ヒロハウシノケグサ、エゾボ
ウフウ、オクノカンスゲ、ラシヨウモンカズラ、
シナノキイチゴ、ヤナギラン、オオバコウモリ、
サンヨウブシ、スダヤクシュ、クロクモソウ、ヒ
メスゲ、タニギキョウ、タマガワホトトギス、
シダ類ではミヤマウラボ、ホソイノデ、ミヤマ
シダ、ミヤマシケシダ、イワガネゼンマイがみ
られる。奥原先生はノリクラアザミがあると立
ち止まり、総苞片の刺の有無を調べトゲノリク
ラアザミをみつけて満足そう。鉢盛の滝に近づ
き1900m附近になってカラマツの植林域がな
くなり、オオシラビソの天然林になる。天然林
は主にオオシラビソでウラジロモミ、コメツガ、
イチイが混る。サラサドウダン、コヨウラクツ
ツジ、ゴゼンタチバナ、ツルツゲ、イチヨウラ
ン、コミヤマカタバミ、スギカズラ、ホソバト
ウゲシバ、タケシマラン、カニコウモリ、ヤマ
ソテツに混ってウサギシダがみられる。タチハ
イゴケ、イワダレゴケの蘚類が林床をおおっ
ている。やや湿った林床には森林生のウロコミズ
ゴケ、ホソバミズゴケがみられる。頂上附近の
オオシラビソ林と比べてクロウスゴ、オサバグ
サ、セリバシオガマのいないのが違う。滝の上
に出ると林道はなくなり、シナノザサの中を踏み
跡をたよりに進む。幅の狭くなった川原におり
昼食。今日70才を迎えた清沢先生が持って来

たりんごをいただく。疲れた体にりんごはおいしい。川原にはキバナノコマノツメ、オタカラコウ、ヒロハドジョウツナギ、オオバミゾホオズキ、ケゴンアカバナ、シナノオトギリ、イワノガリヤス、ミヤマメシダ、クロクモソウがみられる。林床にはオオバノキ、ミヤマウラジロイチゴ、オオバノキザサ、ミヤマスマレ、オオバタケシマラン、クルマバツクバネソウがある。本沢から離れて水の溜れた沢に入る。トウヒの太木が目につくようになり、沢にはヒロハカツラ、ダケカンパが多くなる。オオトボンガラ、ミヤマカラマツ、オククルマムグラ、バイケイソウ、オサバグサ、キョタキシダ、オオメシダをみる。オオメシダは中信地方では少ない種であるが沢山みられる。2000mを越えると霧が降り林床の草も枯れたり、とけてしまっている。2200mの地点まで登り、最後の水飲み場で休みワサビのおみやげを沢山採り引き返す。6月に美しく咲いていたサンカヨウはみられない。

頂上に登った若者はコケモモ、シラタマノキ、キバナシヤクナゲ、ハクサンシヤクナゲ、オヤマリンドウ、セリバシオガマ、イワカガミ、ゴヨウイチゴ、コガネイチゴ、クロウスゴ等とハ

イマツの分布調査(黒川側に8本、大白川側に40本)結果をおみやげに元気に下山して来る。

今回の採集では時期が遅いためにみられなかった種類をあげると、テンニンソウ、ホソバトリカブト、モミジカラマツ、コタニワタリ、クルマユリ、ギョウジャニンテイク、センジュガビ、ツバメオモト、メタカラコウ、ハリガネカズラ、リンネソウ、オオレイジンソウ、テガタチドリ、ツルリンドウ等がある。また山頂附近にはミズゴケ湿原が2ヶ所あり、北アルプスでは南限のワタスゲをはじめヒメカワズスゲ、シヨウジョウバカマ、ヒメイチゲ、シラタマノキミツバオウレン、ツガザクラ、コバギボウシ、エゾホソイ、ホソバノキソチドリ、ツマトリソウ、マンネンソギ、コガネギクと湿原生のホンミズゴケ、森林生のゴレツミズゴケがみられる。

参加者 清沢晴親・奥原弘人・清水建美・横内文人・楯誠次・松田行雄・波田村役場鎌田芳郎・山口達雄

最後にこの採集会に便宜をはかっていたいただいた波田村長太田徳雄、教育長鎌田芳郎、林務課長山口達雄各位に対し厚く御礼を申し上げます。

(松田行男)

〔新刊紹介〕 自然保護レポート

信州大学教養部自然保護ゼミと、同大霧ヶ峰自然保護ゼミは、それぞれ美ヶ原自然保護レポートと霧ヶ峰自然保護レポート№2を発刊した。これは当地の問題化している自然保護について、調査研究した報告書である。前者は美ヶ原の自然の紹介と、保護か開発かの問題について、自治体・観光業者・一般市民などから意見を聴取し、まとめたもので、最後に総合的観点から美ヶ原を如何にすべきか論じている。後者は№1からつづくもので、最近とみに広がるヒメジョオン類の分布生態、県当局の遊歩道・ビジターセンター計画に対する意見、そしていま最大の関心事である土地売却問題についてレポートしている。いずれも鋭い指適がなされ、自然保護の貴重な資料となろう。(美ヶ原レポート:1973.2月発行,27pp.霧ヶ峰レポート№2:1973.3月発行,27pp.タイプ印刷 各¥150(〒55)。信大教養部生物教室で扱う)